

OSRL の 25 年—組織の成長、提携そして近年の課題

Archie Smith

Chief Executive and Director

Oil Spill Response Ltd., London, UK

要約

Oil Spill Response 社は業界所有の最大の対応組織であり、段階 3 レベルの対応サービスを世界中に提供する責任がある。当社は独立会社として 25 年の歴史を有し、その間に対応能力と広範囲にわたる準備サービスを提供する能力を伸展させてきた。

この成長は、増大する会員のニーズに当社が応えようと努力を続けた結果であり、いわば顧客主導でもたらされた。この間、どのように会社を設立し、どこで操業し、いかに資金を調達し、いかに他の対応組織と協働するかといった課題に直面してきた。

この発表では、会社の発展を図式で説明し、それに影響を与えた諸問題を探る。また、最近の課題と当社がそれらに適応すべくいかに変化を続けているかについても説明する。これらの問題は、業界出資のすべての油流出対応組織に関連がある。

歴史

Oil Spill Response 社は、1970 年代の BP による油回収機や油の包囲・回収システムの開発という先駆的な研究を基に誕生した。BP は基地となる油流出サービスセンターをサウサンプトンに設置し、1995 年までこれを所有し運営していた。1985 年には資金調達のために他の石油会社から支援を得られるようになり、Oil Spill Response 社が設立された。1995 年に、他に頼らずに運営を開始した。任務と基本定款は、その意図と目的に関してすべて今日まで変わっていない。

任務および基本定款は非常に明快なもので、以下のとおりである。

OSRL の任務

OSRL の任務は、油流出事故に地球規模で効率的かつ効果的に対応するための対応資源を提供することである。

OSRL の基本定款

OSRL は、費用効果の高い油流出対応、訓練、コンサルタント業務について卓越したサービスを提供できるよう追求し続ける。

OSRL は、コミュニケーション、対応資源に対する認識、能力の向上に努め、適切な場合には、国際的な段階 3 の油流出対応組織間の地球規模における相互支援を促進する。

このような努力によって、株主が要求する質の高いサービスを提供する OSRL の能力を向上させる。

当社の基盤は今日も当時と同じであり、責任および活動で得られる剰余利益を共有する会員が完全所有する石油業界の非営利共同組織である。かくして、会費を安定した水準で維持し、会社が 4 倍に成長

しても年会費はそれ程上がらなかったのも、結果として比較的安い会費という恩恵によって、より多くの会員を引きつけることになっている。

成長の25年

当社は年を経て大きく変化している。1995年には従業員30名でサウサンプトンにある一拠点で活動していたが、今日では従業員は130名を超えており、サウサンプトン、シンガポール、バーレーンの基地、およびロンドン、アバディーン、リビア、ジャカルタ、西アフリカの事務所で活動している。会員は、当初の4会員から、1995年には13となり、今日では100を超えその内の35は株主である。資産基盤も同様に成長して、現在では3個所の主要備蓄基地と4基の大規模な油処理剤空中散布装置がある。また、空中散布と監視のための4機の航空機が常時待機している。

変わりゆく世界

この間、世界も大きく変化してきた。石油会社が操業するあらゆる場所で環境への意識が高まり、このことが企業責任に拍車をかけている。情報の伝達がさらに早くなり世界は遥かに小さくなって、論議を醸す出来事が公になる可能性が非常に高くなった。そのため以前は容認された事態も今は許されない。油流出事故は注目を浴び、財政的な影響が非常に大きいことが最も懸念されるが、事故件数特にタンカーからの事故は大きく減少している。法制も変化している。その最も注目すべきものが米国におけるOPA90だが、これがきっかけとなって二重船殻タンカーへの動きが始まった。欧州での事故のあと、EUも海運業界が望むより遥かに迅速にその導入を義務付けた。現在多くの国々が、各国に油流出事故管理に関する適切な枠組み作りを促すOPRCに加盟しているが、さらに厳しい規則が制定されつつあり、中国がその適例である。ここ数年間の興味深い変化は海運におけるもので、特にこれまで圧倒的に石油会社が有していたタンカーの所有権についての変化である。今日では多数の船団を所有するのはごく稀であり、石油会社は庸船に頼って自身は注目されないようにしているのだ！これは、25年前の状態よりも石油会社の中核部から油流出事故の問題を遠ざけていることになる。

これがいかにOSRLおよび他の業界所有の協同組織に影響を与えたかは興味深い。環境に対する意識の高まりによって当社の会員および顧客の基盤が広がった。更に多くの会社加わるが、企業の評判を上げるためであって、必ずしも法令要件としてではない。大手石油会社が世界のどこで操業しても、同じ環境基準を確実に維持していることは当社も認識している。過去に実施された内容より充実している。流出事故の減少は石油会社内の知識基盤に影響しており、流出の経験は遥かに少なくなる上、知識のある人たちは異動したり退職したりしている。同時に石油会社はあらゆるスリム化を行い「非中核的」活動を削減した結果、社内の専門技術が貧弱になり外部からの要求は増大している。これが油流出事故のより大きな財政的影響と相まって準備活動の需要増となり、結果的に当社の業務増大を招いている。これは、緊急時対応計画、訓練、演習だけではなく、掘削または開発時に短期間賃借する信頼できる資機材へのニーズにも及んでいる。このいくつかは法令によるものであり、各政府は認識を高め、当然より高水準の準備を期待している。しかしながら、政府の行動には必ずしも現実的でないものもあるため、当社では定期的に国内の段階3対応基地の要求に耳を傾け、また段階的対応構造およびその価値や利点

を説明しなければならない。これによって、IPIECA および IMO と共同で行っている OPRC および段階的対応概念の促進への我々の関わりが深まるようになった。大企業内部の油流出事故対応に対する関心が、企業主導から事業部門主導へと変化したことも当社に影響し、恐らく最も根本的なものとなった。企業の中枢部が影響力を失い事業部門の直接的責任がより重くなるので、数千マイルも離れたところからの流出対応資源の受け入れには当然抵抗があり、当社がより手近にいてほしいという期待がある。流出対応であれ或いはガイダンスや準備であれ、彼らは当社が今ここで何が出来るかに関心がある。もしも我々が彼らの近くにいないければ、誤解の余地が大きくなり、当社に対する価値評価が下がる可能性がある。

OSRL および他の協同組織にとっての意義 (or 影響)

これら変化の意味合いは大きいものであり、当社および他の協同組織に多くの変化をもたらした。まず、会員を支援する能力を増強しなければならず、当社は数多くの方法で行ってきた。

石油会社の手持ち対応資源は比較的少ないので、我々はそのギャップを埋める必要がある。我々は緊急時対応組織としてスタートしたが、これは事故の緊急段階に関与し、また石油会社が自らのチームを動員し、事態を掌握し、プロジェクトと修復の段階に入ったら速やかに撤退するということである。予備能力がない場合、当社が事故現場にもっと長く留まることが期待され、実際にそのように要請される場合がある。当社では、一つのプロジェクトにおいて 3~4 か月でチームを完全に入れ替えるのは珍しいことではなく、配置されているグループと同等の休暇中のグループがあり、別の事故への準備のために備えておかなければならない。準備態勢にある者も同様に背後のサポートが必要であり、かなりの人数を必要とする 2 件以上の事故に同時に迅速に対処できる態勢を整えている。当社は明らかに成長してきており、現在 80 名以上の有能な対応要員がいるだけでなく、2000 年の EARL との提携で対応資源も統合した。これにより多くの要員を展開でき、柔軟性が増すようになった。英国からアジアへの航空運賃の支払いは別の人を雇うよりは安いのだ！ このような提携・合併のニーズが続いているのは事実であり、能力を増強するために最近 AMOSC と提携した。より幅広い規模で、当社はグローバルレスポンスネットワーク (GRN) を結成した。これは、業界所有の協同組織間の緩やかな提携で、このネットワークに加わることで、利用可能であれば、無料で対応資源を共用することに同意するものである。たとえば、プレスティージ号の油流出事故の際、当社の対応資源は出払ってしまい、流出現場への派遣および当社サウサンプトン基地の補充のために、米国の MSRC とオーストラリアの AMOSC が対応要員を貸してくれた。GRN は、各協同組織が「最悪ケース」のシナリオに備えて人員を増強することなく、業界の能力を高めることが出来る手段である。

石油会社からより多くの責任を引き受けるに従って、より多くの専門技術に対する要求が増している。従来の緊急段階における我々の役割は、他の対応資源が動員された際に、技術的な対応資源を提供し、機材を効果的に展開し、油回収を開始することであった。優秀な技術者は足りていた。今日期待されるのは、我々が更に専門家としての役割を果たすことであり、即ち我々は、現場調査から環境面の助言まで広範囲にわたって援助することおよび事故の指揮管理組織内で役割を果たすことを期待されている。これは、より広い技能基盤を持った有能な要員を意味している。当社は現在大卒レベルの人材を採用し

ており、高いレベルの能力を保証する厳格な訓練プログラムを有している。この能力を会員に証明するために正式な資格認定プロセスを導入し、石油業界の訓練機関である OPITO との連携により、流出対応者から事故対応指揮者までの職務認定方式を開発し実施している。当社は GRN 経由で他の協同組織との共同作業で、これらの職務すべてに関する共通基準の設定を試みている。提供される要員が適正な能力の持ち主であるか否か使用する側の当社会員が誰でも素早く確かめられるように、共通基準がすべての流出対応組織で採用されるよう願っている。キャリア開発の助けとなりまた採用者が有能であるほどそれだけ社員の期待が高くなるので、社員がこれらの資格認定について知りたがっていることは注目すべき興味深いことである。

意識の高まりと一層厳しい要件のため、準備サービスへの需要は増大しており、我々は訓練成果の年々の伸びを見てきた。現在は多くの国々で年間 2000 人超を訓練している。当社の訓練コースは流出油の管理から海岸監視人更に幹部の意識、およびその他の広範な項目に及び、この傾向が継続するものと考えている。同時に、会員から能力に基づいた訓練をという要望があり、そこでコース参加者を評価・認定している。これによって、石油会社はそのスタッフの能力をよりよく理解できる。我々は各コースに追加の担当者を配さなければならず、かつ彼らは訓練指導者であると同時に有能な評価者でなければならないという点で仕事量が著しく増えている。今日まで、我々は他の協同組織で同様の方式を見たことはないが、AMOSC が同じような要望に直面していることを知っている。

大手の石油会社内において、影響力が企業中枢から事業部門へ移ったことにより、多分我々の組織も大きな影響を受けた。サービスが操業の中心地近くにあるべきという要求である。我々は段階式対応構造を支持していて、当社の段階 3 対応センターを現在地から移すつもりはないが、地元の要求を満たすことはできなければならない。前述のように、要求をより多く満たしつつ顧客を援助することが出来るようにするためには、当社は顧客の近くにいる必要がある。小規模の流出および事故は発生し続けており、比較的影響が大きい。当社は段階 1 または 2 の対応者ではないが、しっかりした準備の確立を支援しなければならず、また援助および指導をすることが出来る。会員は、いかなる状況下（特に流出発生前に）でも当社の専門技術を求められることを必要としており、したがってアクセス可能であることが極めて重要である。このために、バーレーンでの基地の設立、石油業界の関心が集まるリビアおよび大規模石油産業地域であり続ける西アフリカへの進出に、膨大な時間と努力を費やした。同様にジャカルタでは、シンガポールから遠くないがこの重要な地域へのアクセスという観点から、国内で最善のサービスを提供する必要がある。この近接性故に当社はより多くのサービス提供することになり、またより多くの会員を得て増大する要求に応えている。

これは主に付加的事業から生じる収益による自己資金で賄われているが、それがこの方法で行っている唯一の理由ではない。常に最も安価な解決策を求める傾向があり、これは極めて利益主導型である事業部門内では最もあり得ることである。操業地点から遠く離れた大規模対応センターでは殆ど或いは全く価値がないと、地域の影響をうける事業部門が思い込まれることがある。油流出事故や業界がどのように対処してきたかについての経験がほとんど、もしくはまったくなく、このために段階的対応構造の重要性を見逃している場合には特にそれが言える。短期的にはプラスであっても、それが極度に段階的対応構造の土台を傷つけているような場合には、長期的にはマイナスの影響を与える可能性があり、

結局は石油業界に甚大な財政的影響を及ぼすことになる。したがって、当社が顧客、すなわち勘定を払う人たちの近くにいないで、我々の組織の価値を継続して示すことが出来ないならば、段階的対応構造の欠陥を見つけなければならない。

結論

過去 25 年の間に油流出事故対応には多くの変化があったが、世界の変遷とともに、この変化は続くであろう。我が社は健全であり石油業界へのサービスを継続出来る状態にあるが、専門技術のレベルは向上させる必要がある。今後の要求は、より高いレベルのサービスを多く提供することである。大手の石油会社は操業を改善し続け、サービス提供事業者に大きな期待を寄せている。彼らは高い質と厳しい価格を要求し、常に効率の向上に努めている。石油業界の協同組織は彼らのビジネスモデルの重要部分であって、彼らは当社からのサービスの効率と質が同じように向上することを期待している。当社がこれを可能にすればするほど、それだけ彼らは当社を信頼しかつ当社への期待が高まっていく。我々は、刺激的でやりがいのある時代に生きている。